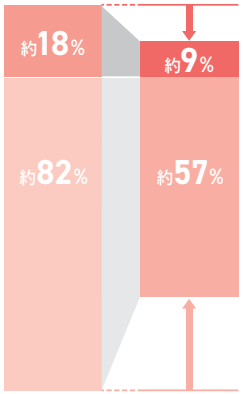
1. 環境

ふるさと北海道の資源を未来へ引き渡していくために、
さまざまな取り組みを行っています。

温室効果ガス（GHG）排出量削減への取り組み

日本のコカ・コーラシステムは、2030年までに日本国内のバリューチェーン全体における温室効果ガスの排出量を工場やオフィスのエネルギー使用に起因する排出量を示す「スコープ1と2」では50%、事業活動に伴うその他原料の加工、自動販売機などの排出量を示す「スコープ3」では30%（いずれも2015年比）削減する目標を策定しています。

日本のコカ・コーラシステムの
GHG削減目標（2021年10月発表）



	2030年の削減目標（2015年比）	コカ・コーラシステムの代表的な取り組み
スコープ1 直接GHG排出量 スコープ2 間接的なGHG排出量	−50%	●再生可能エネルギーの導入 ●工場設備やオフィスの改善 ●物流・輸送の改善
スコープ3 その他の間接的GHG排出量	−30%	●「ボトルtoボトル」及び100%リサイクルPETボトルの導入推進 ●自動販売機オペレーションの改善とバリューチェーンの最適化 1本でCO₂ 約60%※削減へ ※一般的なPETボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合

取り組み事例 「ZEB Ready」認証を取得

2022年4月に竣工したグループ会社幸楽輸送（株）の本社において、ZEB Ready認証を取得しました。これは標準的な建物の基準と比べて年間の一次エネルギー（化石燃料など）使用量を50%以上削減できる機能を備えた建物への認証です。

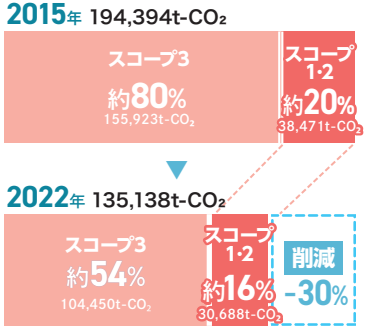
取り組み事例 「省エネ」と「創エネ」

札幌東事業所（2017年竣工）は、LED照明や自然光設備の導入により照明電力の削減に取り組んでいます。また所内で太陽光や風力による発電も行い、GHG排出の削減に努めています。

取り組み事例 省エネ自動販売機

「ピークシフト自販機」は、冷却のための電力を日中に使用しない、超省エネ型自動販売機です。冷却の電力使用を比較的電力に余裕がある夜にシフトしています。夜間に冷却し、日中は冷却を停止したままで最長16時間冷たい製品を販売でき、日中の消費電力を最大約95%削減できます。

北海道コカ・コーラグループのスコープ別GHG排出量実績



取り組み事例 オフサイトPPA

2023年7月に、北海道電力（株）、（株）アークが共同で出資・運営する合同会社「HARE晴れ（はればれ）」と、太陽光発電によるオフサイトPPA（Power Purchase Agreement・電力販売契約モデル）に関する契約を結びました。北海道電力を通じて「HARE晴れ」の太陽光発電所（千歳市）が発電する再エネ電力年間約1,300MWhを調達します。これによって、従来比で年間約700トンのCO_2削減（札幌工場の製品約1,600万本分製造する際に排出されるCO_2に相当）を実現します。

容器の2030年ビジョン

2022年度の日本国内のPETボトルリサイクル率は86.9%※となっており、約40%のヨーロッパ、約20%のアメリカなどと比べて世界最高の水準を維持しています。日本のコカ･コーラシステムでは、グローバルビジョン「廃棄物ゼロ社会（World Without Waste）」に基づき、2018年1月に「容器の2030年ビジョン」を策定しました。容器の軽量化や、回収・リサイクルへの取り組みなどを通じて得た世界をリードする技術を駆使しながら、「2030年までに世界で販売する製品の販売量に相当する缶・PET容器をすべて回収・リサイクルすること」を目指します。

※PETボトルリサイクル推進協議会発表。

World Without Waste3本の柱

❶ 設計 Design

容器の原料や形状をよりサスティナブルに

ボトルtoボトル※　ラベルレス　容器の軽量化

※「ボトルtoボトル」とはPETボトルを回収し、PETボトルとして再生すること。

❷ 回収 Collect

販売した自社製品と同等量の容器を回収＆リサイクル

❸ パートナー Partner

政府、自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じ、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と維持

日本のコカ･コーラシステム「容器の2030年ビジョン」

2020年 → 2021年 → 2025年 → 2030年目標

サスティナブル素材使用率 ※2020年まではボトルtoボトル比率

すべてのPETボトルをサスティナブル素材に切替

サスティナブル素材を使用している製品の割合（販売本数ベース）

すべてのPETボトルにサスティナブル素材を使用

※サスティナブル素材＝ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

地域とともに取り組むPETボトルリサイクル

2023年9月に上士幌町、2024年3月に岩見沢市と「ペットボトル資源循環型リサイクルに関する事業連携協定」を締結しました。市町が回収する使用済みPETボトルを、粉砕・洗浄などの各工程を経て再原料化して、それらを当社が製造・販売するコカ･コーラ社製品の新たなPETボトルに再生します。

これは「『ボトルtoボトル』水平リサイクル※」と呼ばれる事業で、PETボトルを資源として何度も循環させられるので、石油由来の原料から製造されるPETボトルに比べて、CO_2排出量を約60%削減することができます。

当社と上士幌町、岩見沢市は、生活者・事業者・行政の三者が一体となって、道内におけるPETボトルの循環利用への貢献を深めます。

※ 使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理したうえでPETボトルとして再生し、飲料容器として用いること。

北海道オリジナルキャッチコピーを導入

プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、北海道独自で「はずす はがす かえす」のキャッチフレーズを導入しています。

これは、生活者のリサイクルに対する「認知」から「行動」へのステップアップを意識してデザインされており、広告物やPOP、リサイクルボックス等に使用し、生活者の皆さまへのコミュニケーションを強化していきます。